

空想世界

ふたなり宗教汚染

## 序章 洗脳改

この世界とは違う“魔法”や“魔物”が発達したファンタジーと呼ばれる世界。そして、世界は大きく三国に分かれて統治されていた。

騎士を教育し忠義に重んじた王国・ハイレム

魔術に卓越し勉強に特化した魔法国家・ドレイル

機械技術が他国よりも発達した技術国家・ヴァイガム

三分した国々はお互いを尊重し合い、数千年以上争う事なく穏和で平和を築いていた。だが、新たな宗教という名を冠した“悪魔”が手を伸ばしていた。

\*

騎士国家・ハイレムは王城を中心とした中世期的石作り街であり、大きく㌦つの地区と王城に別れ、堅固な壁と鍛えられた兵士達ほどの国にも負けない総合力を持っていた。

そして。玉座の間には、王妃と王女と各自地区を統括する若き女性代表者達。

ハイレムでは、若さと血統こそが物を云う。男性や老年の堅苦しい考えや肉体では、かつての戦や悪政による大きな代償を払った暗い歴史がある。そこから統治するのは、家系において優れた信用足りうる若き女性という習わしが生まれていた。

商業地区、牧場地区、住宅地区、修練地区の㌦人の代表が玉座の前で、新教団との邂逅を待っていた。

「忙しい私たちを呼び付けるなんて、他国の宗教団体は余程の不躰な連中らです」と

商業地区を受け持つ少女の名はライツ・フォン・タイドリア。赤毛の癖っ毛で凹凸の少ない肉体で一七歳という才女。

名家の産まれでいながら、若くして国の重要人物まで昇り詰められる実力者である。他国からも“彼女なくして国の歯車（金）は回らぬ”とまで言わしめる信頼の高さ。豪邸で金銭に糸目を付けない内装で召使いを余らせる程に金遣いは荒い点が問題視されている。

「うゝん、私も忙しいから時間は取りたくないですね。姫様、王妃様。本当に申し訳ございませんがキリの良いタイミングで抜け出させて貰いますね」

牧場地区を治めるクララ・ライドリッツ。糸目で190cm越えの高身長、歩く度に揺れる乳と尻肉は牧場で鍛えられても尚弛んでしまう魅惑のボディ。

広大な土地で牛、豚、鶏、羊、ヤギなどの牧畜と数々の野菜や果物が自国の市場に流通しているのは彼女あってこそ。全ての地区で最も大きな地区をまとめ上げながら、休む日などなく自身の身を粉にしても仲間という労働仲間達と日々

励んでいるグラントマザー的存在。

「今回の外交は些か情報不足です。確かに、隣国で扱われている他宗教でも自国に取り入れれば混乱の原因となりますので、十分な注意と配慮をさせて頂きます」

軍服姿の彼女の名は、バルト・ユグレシア。栗色の髪にキリツとした眉毛の美男子の見た目だが、胸の膨らみだけでも女性だと分かる。

住宅地区を治めながらも憲兵団長官のやり手。規律を重んじ公平な視覚により、正と悪を見分け裁きを下す。例えば、貴族だろうと貧民であろうと彼女の前では“真実”のみ追求して暴かれ誠実な許しと厳しい罰を与える。

カリスマ性と尽力あつてか、ハイレムはもつとも平和な時代と称賛されている。

「貴様ら、姫様の御前だぞ！もつと礼節を弁えないか！」

声を荒げて場を絞めるのは、王国女騎士団長カーネリア・フォン・ライゼンベルク。若年でありながらも王国一の実力者であり厳格者。若くして騎士団の養成地区を

収める国一番の剣士。

軽装な鎧ながらも外見からでも分かる強者の威光と長く伸びた金色の髪と同性するらも簡単に射止める美貌、才色兼備、眉目秀丽という言葉が似合う完璧超人。素手で20の山賊団を一日で壊滅させたという逸話を持っている。

「あらあら、カーネリア。そんなに畏まらないで。ライツもクララも忙しい中御免なさいね。バルトも肩の力をもう少し抜いてリラックスしてて良いのよ」

現在、ハイレム王国を治める王妃・ナタリア・アーサー・ハイレム。一人の娘を持つ母親でありながら、美貌だけで人の戦意や悪意を失くせる。

全ての国民から、ハイレムの母と呼ばれた彼女。国王であった夫を亡くして、一人で娘を育て優しさで国を守り、無限の母性は日頃意見の合わない各自自治区のリーダーが彼女を守る事だけは全会一致で纏まる。その位の忠誠心を生ませるのは、ナタリアの優しさあってこそだろう。

この日に、この領地の統治者と王族が集まったのは、ハイレム王女であるカ